



Global Mobility Service株式会社 執行役員 事業本部長兼国内事業部長

だんじょう けいた
檀上 恵太氏

2015年度 岐阜大学 工学部 応用化学科 卒業



社会課題解決型ビジネスに興味を持ったきっかけ

私は在学中、カンボジアへ一人旅をした際に、ストリートチルドレンや大気汚染問題を目の当たりにする中で、途上国が抱える問題を意識するようになりました。当時研究室では、水銀の大気排出量のシミュレーションを組んでいましたが、途上国へ実際に足を運んだ際に感じた、今まさに必要としている現地の課題解決を、自らが手触り感を持って行いたいと考えたのが今の仕事に繋がっています。

現在の仕事の紹介

国連が掲げているSDGsの全17項目の中に貧困問題がありますが、途上国では特に貧困問題と環境問題が密接に関わっているケースが多々あります。Global Mobility Service (株) では、これまで経済的理由が問題で、古い車両等を使わざるを得なかった方々をメンテナンスに、当社が独自で開発したテクノロジーを使い、金融機関と連携することで、より環境対策が行われた車両へ切り替えを行うことができるよう、日本・フィリピン・カンボジア・インドネシアで事業活動を行っています。私自身は当社の事業統括責任者として、日々、各国の情報収集や国内金融機関との折衝等を行い、いわゆるFinancial Inclusionの実現に向けて活動しています。

学生時代の勉強と今に通ずる点

途上国が抱えている課題は多岐に渡り、課題解決を行う中においては、さまざまなプレイヤーと連携することが必要不可欠となります。多くのプレイヤーを巻き込み、更に強い連携を図る為には、説得力が必要となります。

私は在学中の研究を通じて、仮説検証やデータを緻密に取る重要性を学んでいましたので、常に事象を数字で捉えて、周りを巻き込むロジックを考えるとという力は、非常に役立っていると感じています。

在学生へのメッセージ

途上国のみならず、世界が抱えている課題解決には、様々なバックグラウンドを持った方々の努力が必要となってきます。特に環境問題はその複雑性から、視点を変えながら課題解決を検討することも必要になる場面が多いかと思います。今行っている直接的な研究分野に該当しなくとも、課題解決型企业に興味があれば、是非一度当社の門を叩いていただければと思います。



「MCCS」を活用して車両をローンで購入したフィリピンのトライシクルドライバー



カンボジアのボランティアスクールにて



当社独自開発のIoTデバイス「MCCS[®]」
※ MCCS：車やバイク等を遠隔から制御可能にする端末

▶ Global Mobility Service株式会社
<https://www.global-mobility-service.com>



12 つくる責任
つかう責任13 気候変動に
具体的な対策を15 陸の豊かさも
守ろう17 パートナーシップで
目標を達成しよう

株式会社TOWING 代表取締役

にしだ こうへい
西田 宏平氏2015年度 名古屋大学 理学部 地球惑星科学科 卒業
2017年度 名古屋大学 環境学研究科 地球環境科学専攻 修了

宇宙での食料生産プロジェクト「宙農」

なぜ起業したのか？

私は漫画『宇宙兄弟』が大好きで、天文学者になるために名古屋大学理学部に入学しました。ただ、天文系の授業が難しく、ついていくことがやっとの状態でした。そのような中で、偶然2つの出会いがあり、起業を考え始めました。1つ目は、宇宙で畑を作る技術です。土壌微生物は奥が深く、2015年前後によく世界で初めて人工的に畑の微生物環境を再現して、ある程度制御できる技術が開発されました。この技術を使えば、月や火星の砂を材料に畑を展開できるという報告資料を見て、私は「これだ!」と思いました。2つ目は、東海地区5大学(名古屋大学、豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学)による起業家育成プロジェクトTongaliです。良い技術はできたのですが、どのようにして地球や宇宙で使ってもらうのが、当時の課題でした。その時にTongaliに出会い、起業して技術を社会実装する方法を教えてもらいました。卒業後に



Tongali スクールでの研修中の様子

自動車部品メーカーのデンソーでエンジニアとして働きながら、副業で体制を整え、独立&起業して今に至ります。

次世代の食料生産システム

TOWINGでは現在、農林水産省が実施する月面基地内の食料生産システムの開発プロジェクトに参画しています。月面基地内では資源が貴重なため、宇宙飛行士の排泄物や食べ残し等の残渣を利活用しなければなりません。その際に弊社の微生物培養技術*を活用して、



資源循環に対応した畑を月面基地内に展開する研究開発を行っています。TOWINGでは、同プロジェクトで開発した技術も使い、地球の持続可能な食料生産を実現する事業も実施しています。同事業を各地に展開することで、地域で発生するもみ殻や鶏糞などの残渣を材料にバイオ炭や有機肥料とし、微生物培養技術と掛け合わせた資材を畑に散布することで、畑の質を上げておいしい作物をたくさん収穫でき、かつ畑に炭素を固定できます。TOWINGは、宇宙と地球での持続可能な生活を支える次世代の食料生産システムを各地に展開することを目指しています。

バイオ炭に微生物を
培養した資材

※TOWING独自のバイオ炭の前処理技術、微生物培養等に係る技術を、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構が開発した技術と融合し、実用化しました。

これから必要とされる能力とは何か？

大学時代に恩師の名古屋大学環境学研究科の高野雅夫先生から学んだ「作業仮説転がし」が日々の業務で役に立っています。できるだけさまざまな視点から物事をとらえて仮説を作り、できるだけ早く仮説を検証し、次の仮説を生み出すことは、自分自身のレベルアップやプロジェクトの進展につながります。皆様もご興味あれば、ぜひ実践してみてください。



メンバー写真

▶ 株式会社TOWING
<https://towing.co.jp>

